

CNA Report Japan

Newsletter focused on
Collaborative Conferencing

Conferencing News & Analysis— Since December, 1999

電話会議・テレビ会議・Web 会議専門ニュースレター Vol. 7. No. 9 2005 年 5 月 15 日号 毎月 15 日・月末発行

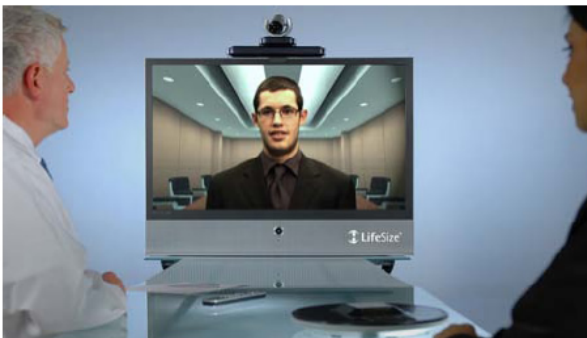
創刊 1999 年 12 月 8 日 発行/編集:橋本啓介 k@cna.jp Copyright 2005 Kay Office All rights reserved.

ニュース項目

■米 LifeSize Communications 社、テレビ会議のハイ・デフィニション化にフォーカスし、テレビ会議の映像クオリティに革新的技術を投入—Wainhouse Research Bulletin 抄訳(日本市場では未定)

米 LifeSize Communications (ライフサイズ・コミュニケーションズ)社は、2年間の“秘密裏の開発プロジェクト”期間を経て、テレビ会議システム、音声会議システムの製品ラインナップを発表した。テレビ会議システムについては、既存の他社のテレビ会議システムとの通信ができるのはもとより、映像の高解像度(ハイ・デフィニション、HD)にフォーカスした製品コンセプトになっている。映像の高解像度(ハイ・デフィニション、HD)は製品開発でのキーポイントになる。

この2年間というのも、3800 万 USD(約 40 億円)ものベンチャーキャピタルによる資金を集め、ポリコムからスピアウトした経営陣が、LifeSize 社を設立。その後、“米 CIA”がうらやむほどの秘密主義を徹底的に貫き、開発、マーケティングなど一切の企業活動が、全く表に見えなかった。その2年間の開発への思いを込めて、満を持しての今回の製品発表となった。今回の LifeSize 社から初めて一斉に発表される製品群は、次の5つの製品からなる。



LifeSize Room システム(HD ディスプレイ)

LifeSize Room—映像の高解像度を実現した会議室向けのハイエンドテレビ会議システム。LifeSize Room は、HD コーデックを搭載し、LifeSize 社が独自開発した、7倍の光学ズームを搭載したHD カメラ、テレビ会議のマイクロフォンとして使える HD 音声会議電話端末(IP 音声会議端末とし



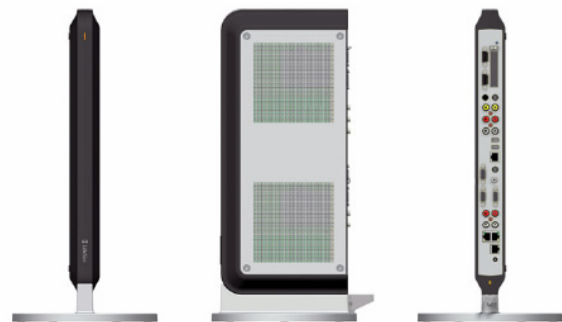
HD カメラ(ベースにマイク搭載)

ても使用可)、そしてワイヤレスのリモートコントロールなどを搭載している。

テレビ会議システムからの映像アウトについては、さまざまなディスプレイに対応し、1Mbps の接続で、1280x720 の解像度。30 フレームレートが出る性能を持つ。1Mbps より低い帯域においては、解像度は若干落ちるがフレームレートは保持できる。

また、多地点接続装置(MCU)を内蔵しており、標準で同時に8カ所の多地点接続テレビ会議が行える。(但し、一度に画面に表示される対地数は、4 カ所。)臨場感が出る奥行きのある音声や、デュアルストリーミングをサポートすることにより映像とデータ表示の遠隔地間でのコラボレーション会議も行える。

LifeSize Phone を含んだ LifeSize Room システムの北米でのメーカー希望小売価格(MSRP)は、11,999USD(約 128 万円)から。



コーデック部(縦置き、横置きなどできる)



LifeSize Room システム

LifeSize Exec—オフィスや小規模会議室など1~4名の使用を想定した、パーソナルエグゼクティブ仕様のテレビ会議システム。LifeSize Exec は、オールインワンタイプのシステムで、16:9 のアスペクト比に対応した 17 インチモニター、70 度広角固定ワイドアングルをサポートした HD カメラ、内蔵の音声会議電話機能、ヘッドセット用ジャック、無線 LAN インターフェイス、ワイヤレスリモートコントロール、などを搭載。LifeSize Exec は、サポートされている通信帯域は、64kbps から 5Mbps。さまざまなディスプレイに対応しており、1280x720 の解像度、そして 30 フレームレートが出る性能を持つ。



LifeSize Exec

16:9 のアスペクト比に対応 17 インチモニター

LifeSize Exec は、LifeSize Room と同様、標準で同時に8カ所の多地点接続テレビ会議が行える。また、デュアルストリーミングをサポートすることにより映像とデータ表示の遠

隔地間でのコラボレーション会議も行える。

LifeSize Phone—高品質な音声クオリティを提供する音声会議端末、円盤型のデザインで 16 のマイクロフォンセンサーを搭載して高感度な音声集音を実現している。LifeSize Room と LifeSize Exec の項目でも説明しているが、LifeSize Phone は、テレビ会議システムの標準に付いてくるもので、会議卓などに置いて音声マイクとして、その上、通常の音声会議端末、IP 音声会議端末としても使える。

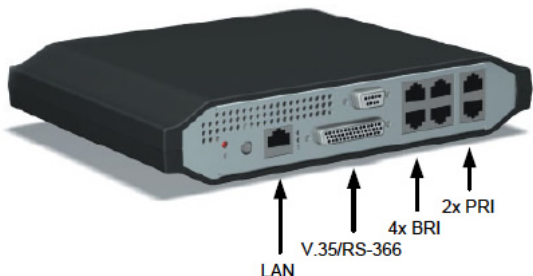


LifeSize Phone—LifeSize テレビ会議端末のマイクとして、また IP あるいは一般回線音声会議端末としても使える、円形の周りに 16 個のマイクロフォンセンサーが搭載

この LifeSize Phone は、「Circular Microphone Array」をサポートしており、16 のマイクロフォンセンサー、音声指向性に関する技術を搭載。指向性が高く、従来の既存の同様な製品と比較し室内の音声の集音力は2倍になっていると同社では説明する。

そして、音声には、MPEG-4 AAC アルゴリズムを使い、接続環境に応じて最大で 22kHz までの音声をサポートするため高品質の音声環境を実現する。同社によると、同社の試験環境での実験によると、同社の音声会議製品は、既存の他の同様な音声会議製品と比較して、音のゆがみが 10 分の 1 に押さえられており、サブウーファーなくとも低音域の音再現が非常に優れているという。価格は、IP 対応が 1,199USD (約 12 万 8 千円)。一般電話回線用が 1,399USD (約 15 万円)。

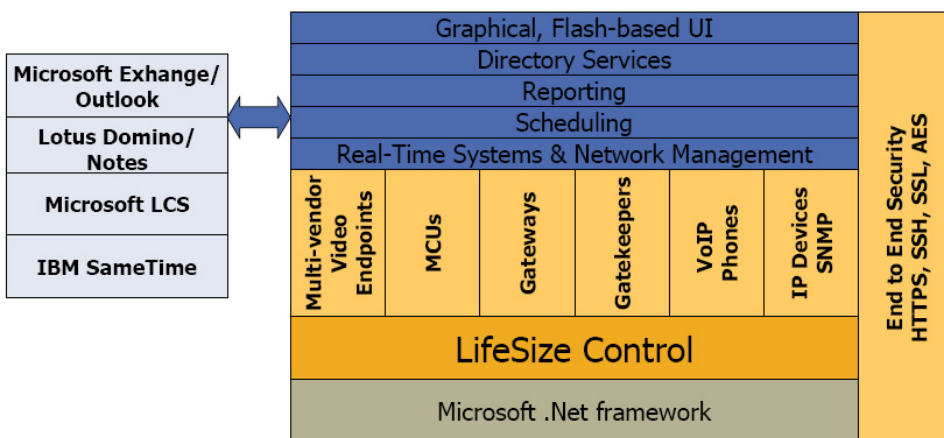
LifeSize Networker—オールインワンタイプのゲートウェイ装置。LifeSize のゲートウェイ装置は、IP と既存の公衆網回線との接続の機能を提供しつつ、コンパクトな筐体に豊



LifeSize Networker ゲートウェイ装置

富なインターフェイスを内蔵する。具体的には、LAN/イーサネットポート(10/100) 1x、ISDN(=NTT INS64 相当)を4回線分、ISDN(=NTT INS1500 相当)を2回線分、V.35を1回線分などのネットワークインターフェイスをサポートしている。価格は、シングル接続をサポートしたものが、1,999USD(約21万5千円)から、複数の接続をサポートしたものが、11,999USD(約128万8000円)から。同製品の価格競争力について同社では自信を見せる。

ゲートウェイは、遠隔にてリモート制御が行え、H.323のテレビ会議システム、AES暗号化などをサポートしている。



LifeSize Control は、運用、予約管理、レポート機能、コール開始機能など豊富な管理機能が搭載

LifeSize Control—テレビ会議運用管理ソフトウェア。この運用管理ソフトウェアで、マルチベンダー環境でテレビ

会議ネットワークの運用が行える。この運用管理ソフトウェアでは、Webベースの予約管理インターフェイスを提供し、セキュアでリアルタイムな運用管理機能を提供している。

加えて、マイクロソフトの Outlook スケジュール機能との連動、オン・デマンドレポート、PDFファイルへのエクスポート機能などもある。この LifeSize 運用管理ソフトは、リレーショナル・データベース・マネジメント・システム(RDBMS)をサポートしている、マイクロソフトの Microsoft.NET プラットフォームをベースとして開発されている。

さらに、マルチベンダー端末が混在するテレビ会議ネットワークで、リアルタイムの端末管理がシングルインターフェイスで操作できる。たとえば、端末のソフトウェアアップグレードなども対応できる。一ライセンスは499USD(約5万3500円)から。無制限ライセンスも提供している。

LifeSize Control は既に販売されているが、その他の製品は、今年の秋口頃に発売予定。

Wainhouse Andrew Davis のコメント

今回 LifeSize 社が発表した内容は、可能性的に非常にインパクトがあるものだが、さまざまな視点から今回の LifeSize の発表を考えてみたい。

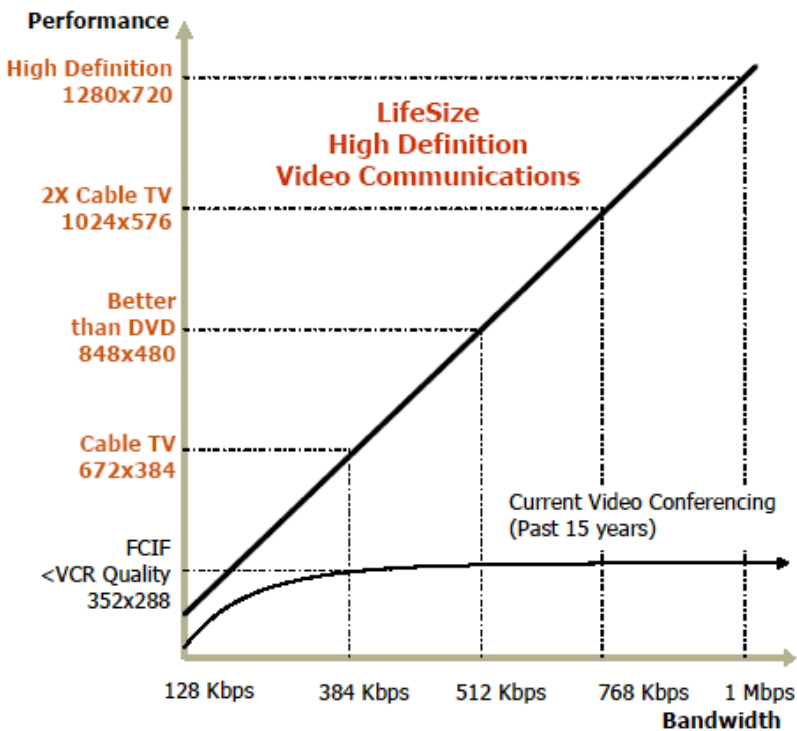
映像について: 最近テレビ会議に搭載されている、プロセッ

サーは、テレビ会議システムの能力を拡大させ、たとえば映像においては、QCIFからフルQCIF、あるいはFCIFビデオ(352x288)までサポートできるようになってきた。もちろんエンドユーザーの立場から言えば、解像度が上がってきたということは非常に喜ばしいことである。しかし、映像クオリティはまだまだと見る趣もある。というのも、テレビ会議における映像のぼやけた感じ、そのため細かいところまでがよく見えないという点は、従前のテレビ会議システムのある意味で限界を示しているようなものだからである。

今回その限界を突破しようとする試みが LifeSize 社から発

表された内容となる。今回 LifeSize 社は、1280x720 の解像度をサポート、つまり、FCIF イメージの約 10 倍のピクセル数を持つもので、それにより、テレビ会議がより、リアルな映像コミュニケーションを提供する能力を持つことになるという意味だ。

もし、読者のあなたが、放送されているテレビ番組を、同時に標準画質のテレビと高解像度のハイ・デフィニションテレビで同時に見比べた場合、あきらかに、高解像度のテレビで見た方が映像のクオリティがよいということを経験することができると思う。ビジュアルに対する印象は、HD により格段に向上する。



LifeSize の HD は、1Mbps のテレビ会議接続で 1280x720 の解像度を実現すると発表

音声について: 今回の製品を見る限り、LifeSize 社は、テレビ会議の映像における解像度だけでなく、音声クオリティにおける品質の高さにも十分注意を払っているようだ。エンドユーザーにとって非常に重視するポイントになる。音声会議端末としての LifeSize Phone は、テレビ会議システムの音声マイクとしての使用と、一般的な音声会議端末としての利用用途の二種類の使い方ができるが、この製品は、その製品の筐体の周りの際を沿って 16 もの全方位アクティブマ

イクセンサーを搭載し、信号対ノイズ比において非常に性能の高い製品に仕上がっているという。

オプション外部マイク不要コンセプトをベースとした設計により、オプションマイクの追加費用を節約でき、また、そのためテーブル上の配線をすっきりさせることもできる。

一音声会議端末としては、従来の既存の音声会議端末と比較して倍の直線距離の集音能力等があるという。さらに、数珠繋ぎで、2 端末まで接続し大規模会議室などにも対応できる。

業界へのインパクトについて:

業界へのインパクトについては、いくつか検討すべき点がある。ここ 5 年以上あるいは、10 年以上は、このテレビ会議業界は、“業界の再編成時代”でもあった。過去をつぶさに見ていくと、大手企業であっても衰退、業界から“消える”、あるいは、買収により合併されるという憂き目を見てきた。そういった業界の出入りが激しい環境の中で、新しいチャレンジングなベンチャー企業が参入してくるのは、業界の再編の動きの中ではおもしろい一つの動きだと思う。また、それは、新興の企業が、既に確立された“クオリティ”の中で、新しい何かを提供するという、さらに、既存の機能に対して新しい意義を提供するという意味からも。

今回の発表からみても、LifeSize 社は、“本気”だ。今回の発表は、単純な製品発表あるいは、ハイ・デフィニションのテレビ会議システム、音声会議端末、ゲートウェイ装置、運営管理ソフトなどの製品ラインナップの発表ではない。

LifeSize 社では、最初の同社の製品ユーザーは、他社の端末なども含まれたマルチベンダーでの設置ユーザーと見ている。

このテレビ会議業界市場は、常に 3 社の大手企業による寡占状態が、この業界にとっては、ある意味で自然な市場法則のような気がしていた。3 社程度による市場寡占状態が、ある一定の顧客の柔軟性、競争的価格設定、そしてそれぞれの端末間の相互接続を担保する上では、最適な市場環境条件

ではないかと今まで思ってきたが、ここに来て LifeSize 社が、既存の製品発想の先を行く観点から参入することになる。それは、顧客にとっても、購入する“理由”にはなり得る。

LifeSize 社が、同社製品に対してハイ・デフィニションをサポートし、既存のテレビ会議システムとも互換を保ちながらも、導入コスト的に競争力のあるものであるという状況は、LifeSize 社にとっては非常に大きな意味があると考えられる。恐らく、他のテレビ会議メーカーも、ハイ・デフィニションの開発を進めていると思われるが、LifeSize 社は、他社に比べ、14 ヶ月から 24 ヶ月先を行っているのではないかと推察する。

LifeSize 社は、同じ価格帯の既存の同様な製品と比較して、“10 倍のパフォーマンスがある”と言っているが、まだ先の話だ。その前に、他社製との相互接続テストやバグフィクスなどのもろもろの超えなければならぬ前段としての“ハードル”がある。そういったことを考えると、最初の顧客への出荷開始は、早くても 2005 年の 10 月“99”日ではないだろうか。

私自身の予想としては、今回の LifeSize 社の発表により、業界は、短期的には若干スローダウンするのではないかと見る。というのも、エンドユーザーは、恐らく LifeSize 社の製品の評価がはっきりするまで、テレビ会議システムの購入を控えると思われるからだ。そして、中期的には、今回の発表によって業界を拡大させるという方向へ行くというよりは、既存のテレビ会議メーカーからのシェアを取るだけに終わるのではないかと。しかし、長期的には、このハイ・デフィニション化の動きが市場を拡大させていく方向へ持って行く可能性はあり得ると考える。ただ、この拡大による効果は、業界にとっては“あまり喜ばしいものとは思えない”という気がする。(必ずしも LifeSize 社にとってという意味ではない。)

映像クオリティは、テレビ会議業界にとっては、非常にわかりづらく難しい問題であった。過去の当社の調査によると、映像クオリティについては、確かにテレビ会議を考える上では、非常に重要な要素ではあるが、“もっとも”重要な要素ではないということ。つまり、重要度トップ5にも映像のクオリティは入らない。

そういった状況で、高解像度のテレビ会議の映像に人々が飛びつくのか？もしかするとそうかもしれない。ハイ・デフィニションのディスプレイは、従来のディスプレイと比較して

価格的に高いが、既に企業の会議室には結構入っているからだが。

さらに、製品の部分の話だけでなく、同社の事業面について考えると、製品のディストリビューションをどうするのかという点がまず課題として出てくる。同社では、その点について、限られた数の販売代理店の陣容で販売戦略を考えている。限られた数の販売代理店ではあるが、最高級の顧客サポートを提供することを考えている。チャネルパートナーが、テレビ会議製品を販売しサポートサービスを提供することにより、利益を出していけるビジネスとすることができるのなら、そこを生業とする企業すべてがその恩恵を受けることができるだろう。

確かに、今回の LifeSize 社の発表は今後の業界を誘う上でも非常におもしろい発表だと思うが、今のところは、まだ実現化していない、“ただのお話”にすぎない。しかし、発表したことにより、その“公約”を守らなければならない立場になったわけだ。

もしかすると、LifeSize 社により、数年後テレビ会議市場や音声会議端末市場は、大きな変化が現れてくるかもしれない。現在の私たちに予想することは難しいが、一ついえることは、いずれ時がそれを知らせてくれるということだ。

(Wainhouse Research Bulletin 2005 年 4 月 18 日号 Special Edition, LifeSize Launches 5-Way Salvo 抄訳)



Andrew W. Davis
Senior Analyst and Managing Partner

Wainhouse Research

<http://www.wainhouse.com>

■米アドビシステムズ社、米マクロメディア社の買収を発表

米アドビシステムズ社は、米マクロメディア社の買収を発表。34 億 USD 相当(約 3650 億円)の全額株式交換方式にて取得する旨の正式契約に両社が合意達した。両社統合後の CEO は、現アドビシステムズ社の CEO である Bruce Chizen 氏、現マクロメディア社の社長兼 CEO である Stephen Elop 氏は、アドビシステムズ社のワールドワイドフィールドオペレーション担当社長に就任。

会議システム関連では、マクロメディア社が、Flash ベースのウェブ会議システム「Macromedia Breeze」を開発・販売して

いる。米マクロメディア社によると、過去 2 年ほどで Breeze 法人ユーザーが 1000 社を超えたという。2004 年 10 月-12 月期に 314 社が増えた。FORTUNE500 社の 49 社が利用。BMW、EPSON、GE、NTT ドコモ、ファイザー、Salesforce.com など。最近米マクロメディア社から、「Breeze 5」が発表になった。

ショートニュース項目

◆元米 Nasdaq 社副会長(1996-2003)であった、Alfred R. Berkeley III 氏が、米ウェブ会議 ASP 大手の WebEx 社の取締役役に就任した。同時に、Jan Baan 氏が取締役会から退任。そして、創業時から WebEx 社の最高技術責任者(CTO)と取締役であった、Min Zhu 氏は、CTO と取締役を退任し母国中国へ戻る。同氏は、今後は、WebEx Fellow となる。

◆米 LifeSize Communications 社は、海外の販売代理店との販売提携を行った。北米では、ID Solutions 社、Videre Conferencing 社、VSGi 社、イギリスでは、Direct Visual 社、Focus21 社、Questmark 社 NIAD 社、nuVIDEO 社、フランスでは、Genedis Group 社、ブラジルは、Seal Telecom 社、オーストラリアでは、Face-to-Face Communications 社。

◆Texas Education Telecommunications Network(TETN)は、米 LifeSize Communications 社のテレビ会議・音声会議ネットワーク運用管理システム「LifeSize Control」の導入を決定。マルチベンダー環境のテレビ会議ネットワークを簡単に運用できるという。また、システムは、Microsoft.NET フレームワークをベースに開発されている。

◆米 LifeSize Communications 社と米 Virtela Communications 社は、ハイ・デフィニション・テレビ会議ソリューションにおいて提携したと発表。先日米 Las Vegas で開催された Interop 2005 にて発表された。Virtela のネットワークサービスに、マネージドサービスとして提供される予定。

◆米多地点会議サービス事業者 Intercall 社の親会社である West Corporation 社は、米通信事業者の Sprint 社の多地点会議サービス事業部の買収を発表した。Sprint 社では長年テレビ会議、音声会議、Web 会議、イベントマネジメントサービスなど会議サービスを提供してきた。今回の買収で West 社は、Sprint 社の会議サービス事業部関連の資産

をすべて取得する。買収額は、2 億 700 万 USD(約 222 億円)。また、買収後も両社は戦略的パートナーシップを締結し、会議サービスのマーケティングと販売を共同で行っていく。

◆イスラエル RADVISION 社は、ClickToMeet など H.323 に対応した PC 向けテレビ会議システムを開発している米 FVC (ファースト・バーチャル・コミュニケーションズ社) のと CUseeMe Networks 社の資産(事業・知的財産・顧客など)を買収・合併すると 2005 年 3 月発表。元 FVC 社の CEO であった Killko Caballero 氏が FVC 事業部門を統括する。Killko Caballero 氏は RADVISION 社内ではエンタープライズ戦略担当上級副社長。

◆2005 年 3 月、学校現場やオフィスでの電子情報ボードの普及を促進する企業団体「日本電子情報ボード普及協議会(JEIBA)」が設立された。電子情報ボードは、遠隔地間でのデータによるプレゼンテーションを双方向で可能にする電子コミュニケーションツール。

日本電子情報ボード普及協議会(JEIBA)

<http://www.jeiba.org/>

e-黒板研究会 <http://www.cec.or.jp/e2a/ekokuban/>

◆これまでの遠隔医療研究会の成果を引き継いで、2005 年 4 月 1 日、「日本遠隔医療学会」が発足。e-Japan にも医療は重点課題として取り扱われており、遠隔医療が明確に整備の対象となっている。国内の遠隔医療の発展を目指し、健康・医療・福祉を含む広範な期待に応えるべく活動を進める。日本遠隔医療学会 <http://square.umin.ac.jp/jtta/>

◆香港の 3 Hong Kong(Hutchison Telecommunications)社は、第三世代携帯テレビ電話による多地点テレビ電話サービスを、RADVISION 社の SCOPIA プラットフォームと WiseSpots 社の WiseVSAA ビデオアプリケーションアーキテクチャーにより構築されたサービスを提供。4 人までのテレビ電話同時参加による多地点間のテレビ電話が行える。

◆ドイツテレビ会議専門誌「Videoconferencing In Europe(4 月 30 日号) http://www.vtron.de/VTRON_News_0405.pdf」によると、中国の多地点接続装置(MCU)メーカー DST Media 社が、ドイツのハンブルグにある Vidofon GmbH 社と販売提携した。DST Media 社は、中国での MCU 市場ではトップメーカーとして知られる。中国銀行、インドネシア・ジャカルタ州政府、三菱重工、富士通、NEC などへの実績があるという。

◆スウェーデンの音声会議端末専門メーカーKonftel 社は、同社の音声会議端末「Konftel 60W」がフランスを本拠とする電気通信システム・装置メーカー、アルカテル社の「パートナーアプリケーション」として承認されたと発表。Konftel 60W は、アルカテル社の各種通信機器との連動が可能になる。

◆イギリスのテレビ会議専門誌「Videoconferencing Insight (4 月末号)」によると、オーストラリアでのシスコシステムズのシスコ IP フォンの導入が 600 社 20 万台を超えた。全世界では、シスコシステムズは、440 万台を販売している。Videoconferencing Insight <http://www.vcinsight.com>

◆イギリスのテレビ会議専門誌「Videoconferencing Insight (4 月末号)」によると、アメリカ政府と南米ホンジュラス政府は、アメリカに不法入国するホンジュラス人の国外強制退去に関わる二国間対応について、テレビ会議システムを使ってより迅速な国外退去手続き (Expedited Removal) を取ることで合意。米国 ICE 移民局は、1750 人 (2005 年 3 月 31 日現在) に及ぶホンジュラス人が ICE にて拘留されているが、2004 年には、7,911 名に及ぶホンジュラス人の国外強制退去を行ったが、国別では 2 番目に多いという。

訂正とお詫び

前号 4 月 30 日号の 3 ページ目の「Tactical にビルドインされているリモコン」の記述に誤りがありました。関係者の方々にはご迷惑をおかけいたしました申し訳ございませんでした。あの画像は TANDBERG 1000 MXP for Cisco CallManager 用のもので、TANDBERG Tactical MXP 用のリモコンとは異なります。

関係者の方より、5 月 2 日に誤りの指摘があり、同日訂正の後、ホームページ上の PDF ファイルを差し替えさせていただきます。

イベント情報

国内

■IP テレフォニー&携帯ソリューション 2005・TV会議フォーラム 2005

日時:2005 年 5 月 19 日-20 日

場所:サンシャインシティ文化会館

主催:日経BP社

詳細:テレビ会議などを含めた IP & 携帯展示会 & セミナー。

詳細:<http://expo.nikkeibp.co.jp/iptel/>

■「フレッツフォン」特別限定セミナー

主催:株式会社ウィルアライアンス

協賛:NTT 東日本

開催日時:2005 年 6 月 17 日 (金) 15:00-17:30

対象者:システム・インテグレーション関係

参加費:無料

締め切り:6 月 13 日 (月)

詳細:<http://www.fph-seisaku.com/seminar/>

海外

■China Multimedia Video Communications

日時:2005 年 6 月 23 日 ~ 6 月 25 日

場所:中国北京市中国国際展覧センタ 2 号館、3 号館

詳細:<http://www.cmvc.com.cn/>

* 会議システム専門の展示会。

BCS Tokyo 2005 情報

お陰様で、25 社のご出展企業様を確認しております。BCS 事務局を代表いたしまして皆様のご協力重ねて御礼申し上げます。公式ホームページは 6 月頭には開設される予定です。来場者、出展社の方々によかったと思われるイベントにすべく事務局一同頑張ります。



BCS Tokyo 2005 イメージ(仮)

編集後記

今回、Wainhouse Research 社が定期発行している PDF ニュースにて掲載された米 LifeSize Communications 社の特別記事の抄訳を掲載いたしました。LifeSize 社は、今回 HD 対応のテレビ会議システムなどを発表しましたが、発売は秋頃とされています。

日本での販売体制については公式的には未定となっておりますが、欧米ではこの会社の話題について広く、HD 化を含め議論されています。そういった欧米での状況から今回抄訳を掲載することに致しました。次号もよろしくお願ひ致します。

CNA 広告募集中:

http://cnar.jp/home/CNAarchive/cna_ad.pdf

CNA レポート・ジャパン

編集長 橋本 啓介 k@cnar.jp (CNA レポート・ジャパン Vol 7. No.9 2005 年 5 月 15 日号終わり) 次号 Vol 7. No. 10 は、2005 年 5 月 31 日の発行を予定しております。